



# いわき市観光まちづくりビジョン

## 観光の力で、いわきを豊かに。

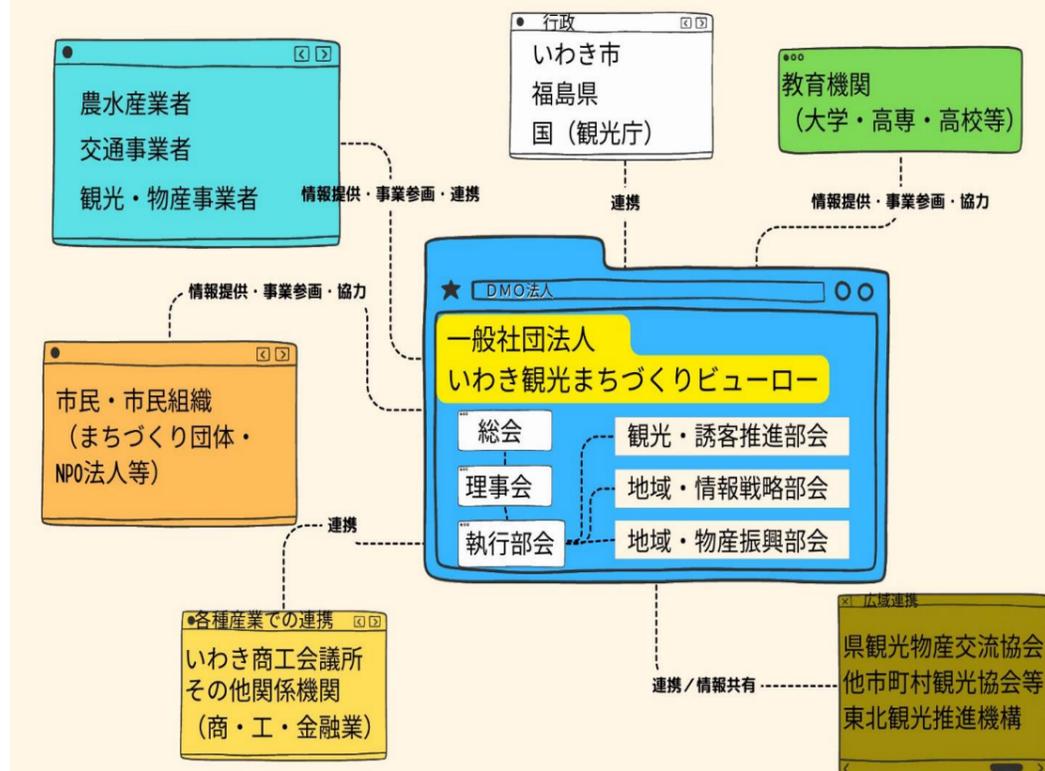
～地域が一丸となって取り組む観光まちづくりへ～

### 【概要版】



### ■ 推進体制

DMOを中心とした、地域の関係者が主体的に参画した体制



#### 【具体的な連携内容】

- 観光・物産事業者/観光・物産関連事業者 (宿泊業): 宿泊施設の整備・提供/インバウンド対応/お客様へのおもてなし 等 (飲食業): 地域の食の提供/インバウンド・ムスリムの受入/お客様へのおもてなし 等
- 交通事業者/交通関係事業者: 二次交通 (バス、タクシー) の利便性・サービス向上/インバウンド対応/お客様へのおもてなし /レンタカー、カーシェアリング、レンタサイクル等との連携 等
- 農林水産業者: 体験プログラム等提供/6次産業化商品造成/農・水産物の提供 等
- 市民/市民組織: 観光まちづくりへの理解/ボランティアガイド・通訳ガイドへの参加/お客様へのおもてなし 等
- 教育機関: 観光教育の推進/人材育成/郷土愛醸成や観光リテラシー向上の学習/学生と協働した情報の発信/等
- いわき市: 人的・財政的支援/観光関連施設や案内板、駐車場等のインフラ整備/各種事業支援/庁内連携 等
- いわき商工会議所/商工会/その他関係機関: 地域名産品の造成/産業観光への協力/キャッシュレス化・免税店登録の推進 等

2024年5月改定

一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー



# 観光の力で、いわきを豊かに。 ～地域が一丸となって取り組む観光まちづくりへ～

## いわき市観光まちづくりビジョン【概要版】

### □ いわき市観光まちづくりビジョン改定の目的

- いわき市観光まちづくりビジョン（以下「観光まちづくりビジョン」という。）は、地域経済を牽引する戦略産業のひとつである“観光産業”において、観光誘客・物産品の振興により、地域経済の活性化が図られることから、観光地としての競争力を高め、地域社会の質の向上を目指した「観光まちづくり」を観光関連事業者及び行政機関、関係団体等が一体となって取り組むための「観光と物産の振興に係る全市的な計画」として2019年5月に策定されたものです。
- しかし、観光まちづくりビジョン策定後、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の発生から10年以上が経過し、震災記憶の伝承や防災・減災意識の醸成が必要な段階に進み、持続可能な社会・地域づくりを探究・創造するホープツーリズムを踏まえた教育旅行の誘致、沿岸部のみならず中山間地も網羅したサイクルルートや沿岸部を活用したトレイルルートの設定など状況の変化に対応した新たな取り組みを始め一方、ALPS（Advanced Liquid Processing System「多核種除去設備」）処理水問題や度重なる自然災害、新型コロナウイルス感染症の拡大に見舞われるなど、いわきの観光を取り巻く環境が大きく変わってきています。
- 今般の改定では、2019年5月に策定された観光まちづくりビジョンについて、これまでに実施してきたアクションプランにおける各種事業やアンケート結果を反映する他、「新たな生活様式」（アフター、ウイズコロナ）や「SDGs」、カーボンニュートラルを反映した旅行商品の造成、「旅ナカ」「旅ナカ」「旅ナカ」が必要となる情報や、風評払拭（ALPS処理水の海洋放出）のための情報の発信に向けた取り組みなど、地域内外から選ばれる持続可能なものとして改定し、いわき観光まちづくりビューローが観光まちづくりビジョンの実現に向けた施策推進の中核組織として、観光関連事業者及び行政機関、関係団体等との連携をより一層強化しながら、各種データの収集・分析に基づく戦略的な観光地域づくりに取り組みます。

### □ 観光まちづくりの実現に向けた基本方針

#### □「観光まちづくり」の考え方



#### □SDGsの推進

重点的に取り組んでいく SDGs

- (1) 「8 働きがいも経済成長も」経済の成長と雇用
- (2) 「12 つくる責任つかう責任」持続可能な消費と生産
- (3) 「14 海の豊かさを守ろう」及び「15 陸の豊かさを守ろう」海洋と陸上資源
- (4) 「17 パートナリシップで目標を達成しよう」実施手段

#### □数値目標(KPIの設定)

旅行消費額	実績 2023年 28,907円 目標 2028年 <b>40,000</b> 円
市内宿泊者数	実績 2023年 585,711人 目標 2028年 <b>850,000</b> 人
外国人宿泊者数	実績 2023年 3,645人 目標 2028年 <b>9,800</b> 人
来訪者満足度	実績 2023年 96.2% 目標 2028年 <b>99.0</b> %
リピーター率	実績 2023年 76.2% 目標 2028年 <b>80.0</b> %
Web アクセスPV数	実績 2023年 4,180,773 PV 目標 2028年 <b>4,750,000</b> PV
市内観光入込客数	実績 2023年 6,869,015人 目標 2028年 <b>8,500,000</b> 人

#### □ビジョンの計画期間



- 【重要な視点】
- 環境の変化への柔軟な対応
  - PDCAサイクルによる改善策を反映
  - 数値・指標による効果測定と客観的な評価
  - スクラップ&ビルドによる事業見直し

### 基本方針の循環イメージ



### 基本戦略

#### 基本戦略Ⅰ 的確なターゲティングによる積極的なプロモーション

新型コロナウイルス感染症の影響により、環境の変化があるなか、観光情報を受け取る方法も変化しています。そのため、いわきの旬な情報をデジタルマーケティングの活用によって、多様な手法で、効果的に配信していきます。また、いわきの魅力向上となる情報の収集を行い、観光商品造成やプロモーションに活かしていきます。

#### 基本戦略Ⅱ 旅行商品の造成による観光誘客

基本方針Ⅰの的確なターゲティングを行ったうえで、日照時間が長く、年中過ごしやすい風光明媚で自然豊かな顔を持ついわきを知っていただき、さらには、興味を持ってもらい、来て、楽しんでいただくための多様な旅行商品を造成し、「来てよかった」につながるように、リピーター獲得に向けた取組みについても推進していきます。

#### 基本戦略Ⅲ いわきの製品の魅力を推進

いわきの魅力ある地場産品を余すことなく様々な機会を通じて発信し、いわきに来て十分に堪能いただくことに加え、いつ・どこでも手に入られるECサイトにより、地場産品を提供することで、リアルとデジタルの両輪でおもてなしをしていきます。

### アクションプラン

- I-1 デジタルマーケティングによる事業ごとのターゲット設定
- I-2 地域と連携した観光・物産情報の収集と効果的な発信
- I-3 インバウンドに対応した情報の発信
- I-4 多様な媒体を活用した情報の発信
- I-5 観光案内所機能の充実

- II-1 テーマ別観光の造成と推進
- II-2 広域連携を積極的に活用した仕掛けの構築
- II-3 教育旅行・宿泊、MICEの誘致
- II-4 インバウンド誘客の推進
- II-5 自然・歴史・文化・芸術の活用
- II-6 地域の祭り・イベントの活用

- III-1 産学官・農工商連携による新たな商品の造成や地域産品の活用促進
- III-2 販路拡大のためのイベントやキャンペーンへの参加
- III-3 食文化のブラッシュアップとプロモーション
- III-4 民・工芸品の伝統の継承と魅力の向上

### いわき観光まちづくりビューローが中心的に行うもの

国内外からの誘客回復のため、知ってもらい、来てもらうためには、その魅力を多くの方に伝え、興味を持っていただく必要があります。デジタルマーケティングの活用によって、**来訪者のニーズや行動のみならず、地域・年代等の多様な情報を把握し、的確にターゲット設定したうえで、最適で確実なプロモーションを行っていきます。**

また、関係団体との情報交換を積極的に行い、観光案内所による一元化した情報発信を行うことで、SNSフォロワー数等の向上につなげます。

さらに、インフルエンサーなどの活用や、風評払拭に向けた情報発信にも積極的に取り組んで参ります。

「いわきFC」や「いわきヘリテージツーリズム協議会」、市内フラ団体、まちづくり団体等と協力しながら、国宝白水阿弥陀堂などの神社仏閣、体験施設、温泉地のさらなる魅力向上、お祭り等の地域資源・自然・芸術を活用したまちあるき、いわき七浜海道や中山間地を網羅した**サイクルルート**や**トレイルルート**の活用を図っていきます。他に、いわきフィルム・コミッション協議会の体制を強化し、ロケ地の充実や発信により、撮影場所の選択やロケ地巡り等も含めた旅行商品を造成していきます。

また、本県は複合災害を経験した唯一の場所として、**ホープツーリズム**を推進し、積極的に教育旅行の誘致を図っていきます。

なお、これらは**インバウンド**誘客を意識しながら、広域連携を推進し、多様な旅行商品の造成、プロモーションを行い、観光客の満足度向上を図り、交流人口の拡大につなげて参ります。

常磐ものや伝統野菜等いわき自慢の食や伝統的な民・工芸品等の魅力を発信し、観光客の方々へ、味わい、楽しんでもらうなど、いわきならではのおもてなしにより、お客様にリピーターとなっていただけるよう、地域資源の積極的な活用に取り組んでいきます。

そのために第一として、いわき大物産展の開催や、ターゲット先となる首都圏における各種物産展・イベントへ事業者の参加を支援することにより、多くの方々へいわきならではの食や民・工芸品を知っていただき、販路拡大につなげます。

また、食の美味しさ・安心安全さ、いわき産品の質の高さを生産者の思いと併せて発信するなど、ブランドイメージのさらなる向上に努めます。

さらに、「**いわきの逸品サイト**」を活用し、商品自体の魅力だけでなく、市内有名店のシェフと連携したレシピ開発による**いわき産品の新たな魅力の発信、生産者と消費者を繋ぐ旅行商品や民・工芸品を活用した体験メニューの造成等、多様な取り組みにより産品の認知度向上を図って参ります。**